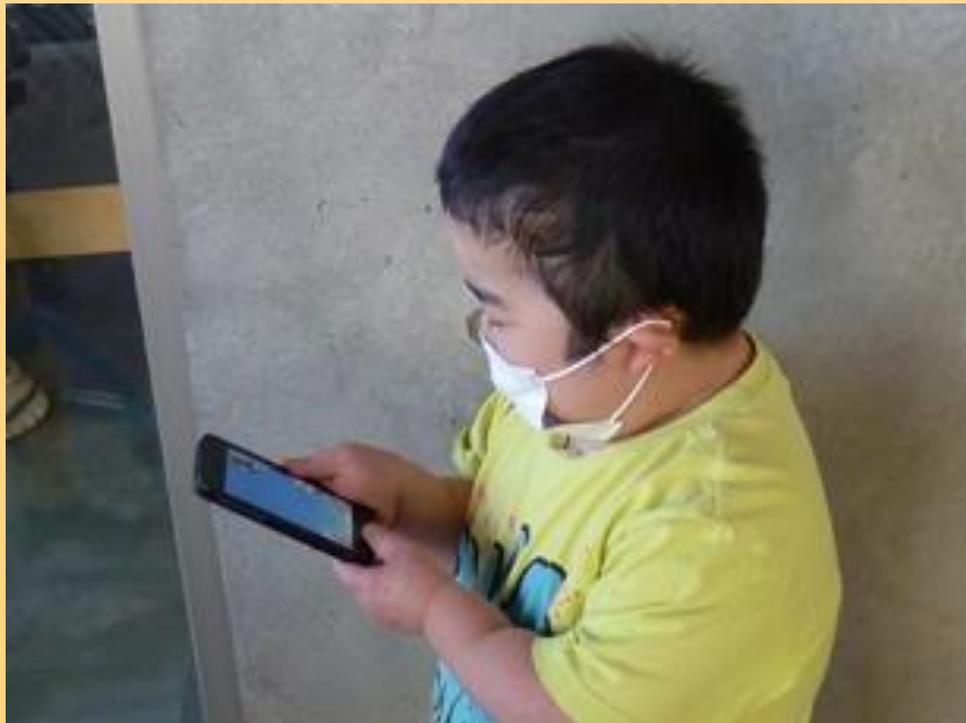


成果を実感するための

I C T 機器活用

— 生徒 A の学力向上・体力向上・生活改善の取り組みから —



福井県立福井東特別支援学校

太田 真揮

生徒の実態(中学部入学時)

○ 感染症に罹患・重篤化しやすい

⇒ 激しい関節痛・嘔吐(2週間～1カ月の入院)

○ 低身長

⇒ 身長85cm(中学1年時) 手足も短い

○ 重度の骨粗しょう症・筋力低下

⇒ 日常動作が困難

⇒ 骨折の危険性

⇒ 常時、電動車いすを利用

○ 慢性的な疲労感・だるさ

⇒ 長時間の活動が困難

⇒ 恒常的なだるさ・疲れ(炎症反応CRP



高IgD症候群
(自己炎症性疾患)

10～20)

新薬投与後の生徒の実態

○ 免疫力・回復力の向上

⇒感染症にかかる回数の減少、入院期間の短縮(3日~7日の入院)

○ 身長増加

→身長100cm(中学3年時) 手足も伸長

○ 骨粗しょう症の緩和・筋力の向上

→骨折リスクの減少

→将来、歩行が可能になる(医師の見解)

○ 疲労感、だるさの緩和

→炎症反応が低下(CRP0.3~2)

→生徒自身も病状の回復を自覚

「普通の人とは元気な時、こんなに身体が楽なんですね」



病状の回復 \neq 自己を高めようとする意欲

自主的に学習に取り組む
姿勢・意欲の不足

歩行への恐怖感



車いす生活への依存

健康管理意識の低さ

学力

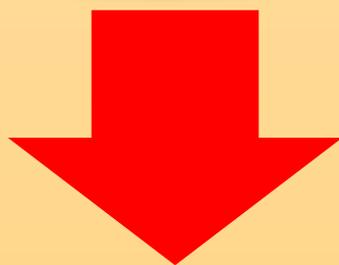
体力

生活

努力

実

感



成果

ICT機器で



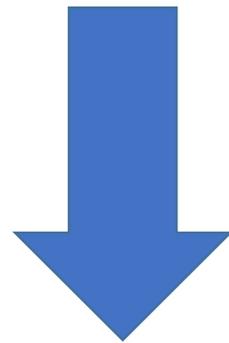
自主的に取り組む意欲

学習向上の取り組み

学力が高まったと生徒が実感を得るために

○ **客観的指標（日本漢字能力検定）の利用**

※日本漢字能力検定は次ページ以降「漢検」と表記

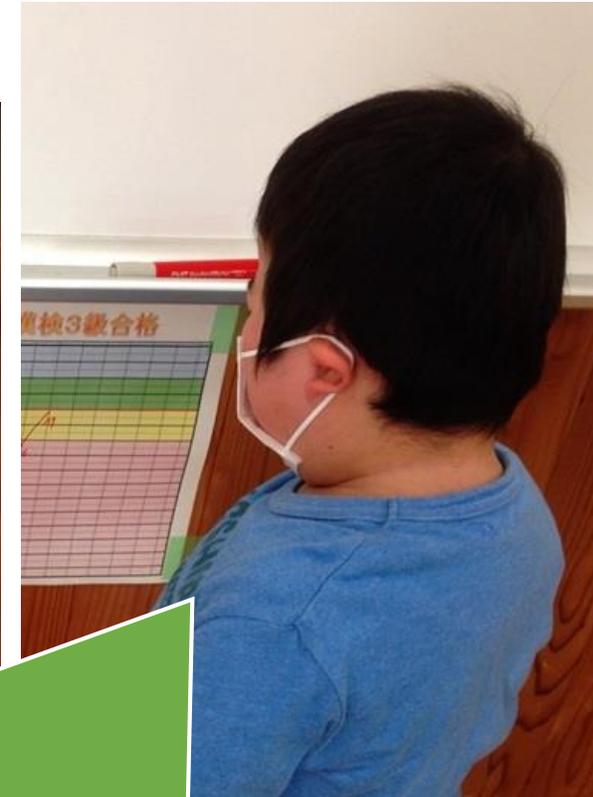
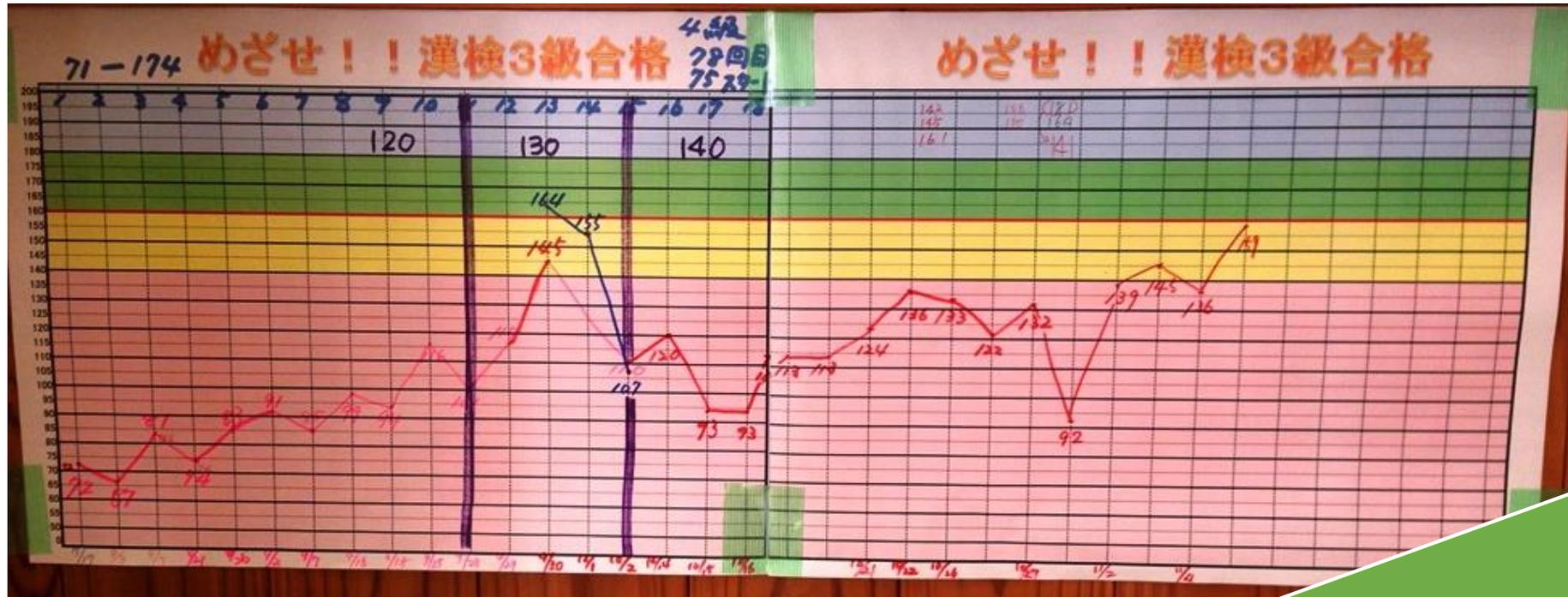


I C T 機器の有効性を検証

徹底した具体的数値化

客観的指標による 徹底した学力の具体的数値化

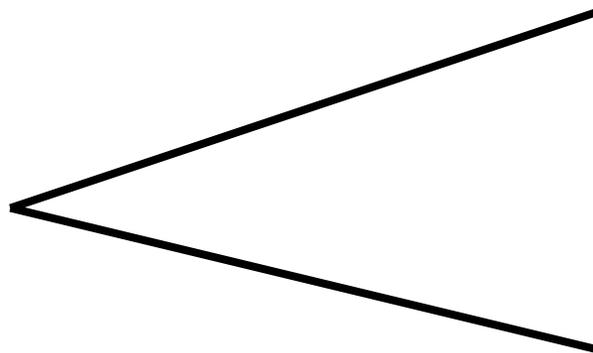
国語：漢検のグラフ



「勉強すると、どんどん得点が上がりますね」

I C T 機器利用の有効性について検証

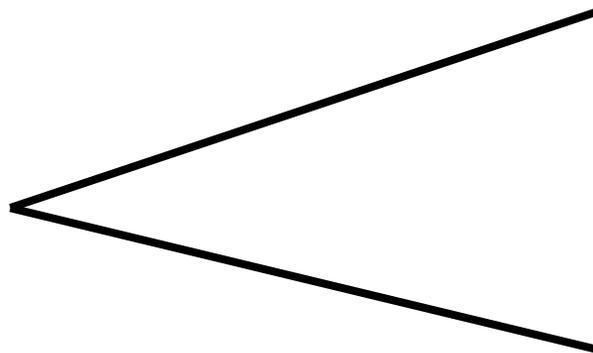
アプリ



プリント

効率的な練習

アプリ



掲示物

情報の共有が簡単

学習でがんばって取り組んだこと

漢検を覚えるまでやったこと。

毎日、約5時間学習をした。

新しい学習方法をやってみた。

(暗記カード)

学習の成果



試験を受けて良い結果がでたと思う。

この方法をやってみて、大変だったけどやっばかったと思う。

努力

結びつき 実感

成果

「新しい学習方法を試してみます」 (学習に対する自主性)

「上位級の漢検や英検にもチャレンジします」 (挑戦する姿勢)

成果：学習習慣の定着 (1日2時間)

日本漢字能力検定 4級・3級 合格

実用英語技能検定 5級 合格



体力向上の取り組み

体力が高まり・自力歩行の良さの
実感を得るために



○移動履歴アプリ「LIFE_NOTES」で
歩行距離を記録



○iPhoneの「カメラ」機能で動画記録



具体的データをもとに教師と生徒が振り返る

長く歩いてもつかれなくなった
歩くスピードが速くなった。



4月 歩行の様子



10月 歩行の様子



「しっかりした姿勢で、歩くことができるようになった」

日常生活の中での電動車いすの利用

4月

常時 電動車いすに
座っている状態



2学期以降

電動車いすの利用

登校時

玄関⇒教室

給食時

教室⇔

ランチルームに限定



身の回りの自立



しゃがんだまま、掃除することができるようになった

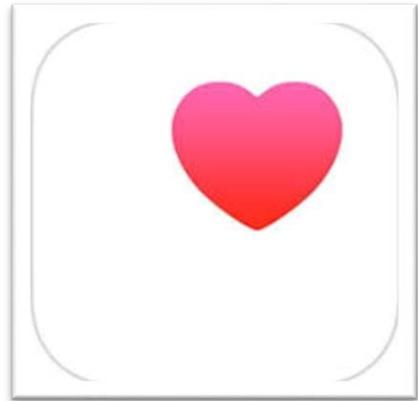
チャレンジ精神の萌芽



「歩く方が楽です。
歩いて競技に参加します」

生活改善の取り組み

健康管理ができるという実感を得るために



- 「ヘルスケア」アプリで、
睡眠・朝食を記録



- 「カメラ」で、給食の食器を撮影

睡眠記録

6月7日～8日

23:00 - 7:50
睡眠

6月8日～9日

23:00 - 7:30
睡眠

6月9日～10日

22:30 - 7:40
睡眠

6月10日～11日

22:20 - 7:30
睡眠

6月11日～12日

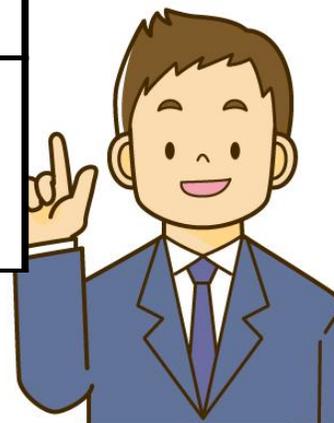
23:00 - 8:30

比べて提示

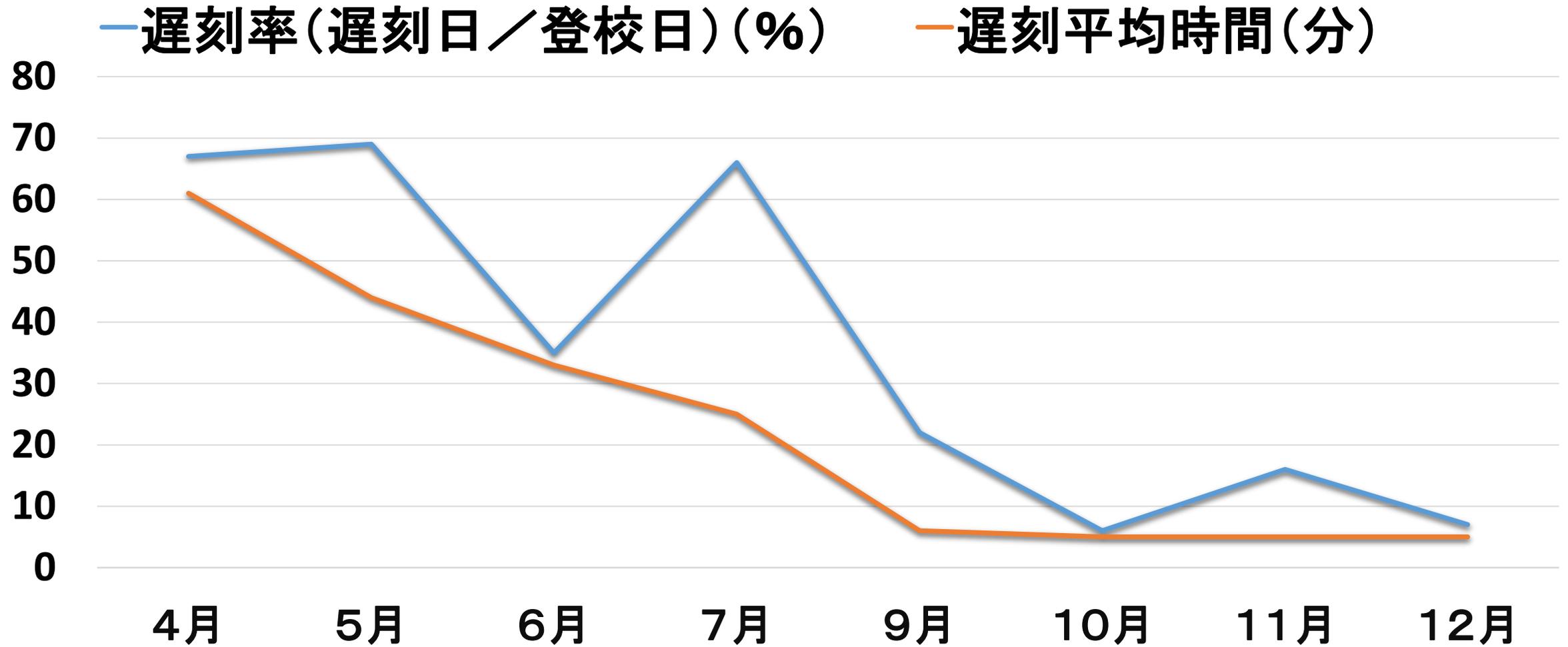
欠席・遅刻の記録

8	月	遅刻 15分
9	火	遅刻 7分
10	水	○
11	木	○ 早退
12	金	遅刻 1時間

早く寝れば、遅刻せずに済みますね。
夜11時よりも早く寝るようにします。



生徒Aの遅刻比率と遅刻平均時間の変遷



早ね、早起きも心がけている
iPhoneの目覚めで起きている



苦手な給食メニュー



ほとんど残してしまう



苦手なメニューについての授業を実施

記録写真をもとに、
「前回より多く食べてみよう」と声掛け

記録写真を比較して提示

⇒生徒「苦手なものを食べようとする姿勢」を評価



10月16日



残っていたチンゲン菜

11月13日



ほとんど完食

苦手なご飯が出て前ほど苦ではなくなった。



実感をもたせるためのICT機器活用

○ 利用にあたって配慮すべき点

- ・ 評価規準に「書字」が含まれるもの
- ・ 複数人数（3者以上）で情報を共有するもの

○ 努力や成果を客観的・具体的データにして提示

⇒ データを基に、生徒自身が具体的な目標を設定

⇒ データを振り返り、努力と成果の因果関係を実感

生徒の実態・ICT機器・アプリの特性を考察

⇒より簡易的・効率的な方法を選択すべき

ご清聴ありがとうございました

